

# 「鎮守の森」に残る照葉樹林

## 石田弘明主任研究員



約3千年前（縄文時代晩期）の日本は現在のように温暖湿潤な気候条件下にありましたが、当時は人口が少なかったため、人間による大規模かつ徹底的な自然破壊はあまり行われていませんでした。このため、縄文時代晩期の日本は国土の多くが自然林（自然状態で成り立つ森林）に覆われてい

るような状況にありました。

自然林は外観や優占樹種などによってさまざまなタイプに区別されます。また、そのタイプは地域によって大きく異なります。では、縄文時代晩期の阪神北地域にはどのようなタイプの自然林が広がっていたのでしょうか？

答えは、ツブラジイやイチガシ、ツクバナガシ、

アカガシなどが優占する照葉樹林です。照葉樹林は熱帯雨林や硬葉樹林と並ぶ世界的に有名な常緑広葉樹林で、亜熱帯・暖温帯の多雨地域に分布しています。

日本の照葉樹林は最寒月（1月）の月平均気温がマ

イナス1度を上回る地域に成立していますので、自然状態であれば阪神北地域の海拔約600以下の場所は照葉樹林に覆われることになりす。しかし、実際の状況はそうではありません。なぜならば、阪神北地域の照葉樹林は弥生時代以降の人間活動によって徹底的に破壊されてしまったからです。

しかし、すべての照葉樹

林が消滅したわけではありません。阪神北地域には、ごくわずかですが、照葉樹林が生き残っている場所があります。どこでしょうか？

答えは、神社仏閣です。猪名川町木津上の八坂神社、同町笹尾の春日神社、三田市貴志の御霊神社、同市上本庄の駒宇佐八幡神社、宝塚市米谷の清荒神清澄寺、同市売布山手町の売布神社、川西市平野の多太神社などに比較的良好な状

態の照葉樹林が分布しています。

日本人は古くから照葉樹林を破壊してきましたが、その一方で、一部の照葉樹林を「鎮守の森」として取り扱い、その保全に取り組んできました。阪神北地域の神社仏閣にはこのような照葉樹林が今なお残存しているのです。

照葉樹林は大変貴重な自然なので、阪神北地域の照葉樹林の多くは「兵庫県の貴重な植物群落」として県版レッドデータブックに掲載されています。また、その一部は県立自然公園や県自然環境保全地域、市天然記念物、市自然環境保全地区などに指定されています。これらの照葉樹林を今後も引き続き保全していく必要があります。



春日神社の照葉樹林＝猪名川町 笹尾

ひとく  
研究員  
だより